



# SENSMI 導入マニュアル

更新日：2026年5月12日

## 目次

1 はじめに .....	3
1-1 SENSMI とは .....	3
1-2 必要機器 .....	3
2 初期設定 .....	4
2-1 BA connected のインストール .....	4
2-2 BSN.Cloud の登録 .....	5
2-3 BrightSign のユニットセットアップ .....	5
2-4 SENSMI のアカウント有効化 .....	15
3 SENSMI 基本操作 .....	16
3-1 SENSMI ログイン .....	16
3-2 Devices .....	16
3-3 Users .....	17
3-4 本体設定手順 .....	17
3-5 Device Manager .....	18
3-6 Dashboard Market .....	19
3-7 Dashboards .....	19
4 用語一覧 .....	23

## 1 はじめに

本書は Sensmi 社のリアルタイムデータアナリティクス『SENSMI（センスミ）』の導入マニュアルです。本ガイドでは、はじめて本製品をお使いになる方向けに、基本的なセットアップ手順と基本操作を説明します。

※製品の仕様は、予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

### 1-1 SENSMI とは

SENSMI（センスミ）は、BrightSign と接続された Nexmosphere 社製デジタルサイネージ用インタラクティブセンサーから取得した情報を、リアルタイムに視覚化し、データを直感的に把握・分析できる環境を提供するソリューションです。

取得したデータは、ダッシュボードやグラフなどで表示でき、業界や利用目的に応じて柔軟にカスタマイズすることが可能です。これにより、来店状況の把握や効果測定などを即座に行うことができ、マーケティング施策などに活用できます。

### 1-2 必要機器

SENSMI を利用するには、以下の機器や環境が必要です。

#### <SENSMI へのアクセス環境>

- ・インターネット環境：Web ブラウザーを使用し、インターネット経由でアクセス。

#### <ハードウェア>

- ・PC または Mac：SENSMI 及び brightAuthor connected（ブライトオーサー・コネクテッド、以下 BA connected と表記）を使用。
- ・BrightSign プレーヤー：シリーズ 5 以降をサポート。
- ・MicroSD カード：BrightSign プレーヤーの設定及びコンテンツの再生に使用。
- ・HDMI ケーブル：BrightSign プレーヤーと表示機器を接続。
- ・Nexmosphere センサー：SENSMI がセンサーからの情報を受信。

#### <ソフトウェア/クラウドサービス>

- ・BA connected：BrightSign プレーヤーの初期設定およびコンテンツ設定に使用するオーサリングソフトウェアです。
- ・BSN.Cloud：BrightSign プレーヤーをクラウド経由で管理・配信する場合に使用するクラウドサービスです。  
※スタンドアロン運用時には使用しません。

## 2 初期設定

SENSMI を使用するためには、以下の準備が必要です。

1. BA connected のインストール
2. BSN.Cloud の登録
- ※ スタンドアローン運用時には、こちらの設定は不要となります。
3. BrightSign のユニットセットアップ
4. SENSMI のアカウント有効化

### 2-1 BA connected のインストール

BrightSign プレーヤーを SENSMI に接続するために、BA connected を使用します。以下の手順でインストールを行います。

#### 1. BA connected

BA connected をインストールするコンピューター（Windows/Mac）、マウス・キーボード等の入力装置、MicroSD カードをご用意ください。Windows 版と Mac 版でユーザーインターフェースに違いはありませんが、本ガイドは Windows 版を元に解説しています。

##### <動作環境>

Windows	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CPU : 2.3GHz 以上</li> <li>・ メモリー : 2GB 以上 (4GB 以上推奨)</li> <li>・ ハードディスク空き容量 : 100MB (コンテンツファイル等を保存するには更に空き容量が必要)</li> <li>・ OS : Windows 10 (32/64bit)、Windows 11</li> </ul>
Mac	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ macOS 10.15 (Catalina) 以降が動作する Mac</li> </ul>

#### 2. BA connected のダウンロード/インストール

BA connected のインストーラーを下記の Web サイトよりダウンロードします。

<https://www.brightsign.biz/resources/software-downloads/>

Windows の場合は、ダウンロードした exe ファイルをダブルクリックしてインストーラーを立ち上げ、ライセンス条件を確認した後、「同意する」をクリックしてインストールします。



## 2-2 BSN.Cloud の登録

BSN.Cloud はクラウドベースのプラットフォームで、プレーヤーの管理とコンテンツ配信に使用されます。BSN.Cloud には、bsn.Control と bsn.Content の2つのサービスが含まれ、Sensmi では bsn.Content を使用します。

※スタンドアローン、ローカルファイルネットワーキング等の BSN.Cloud を介さない運用時には、こちらの設定は不要となります。

- ・ bsn.Content (有料)

クラウド経由で BrightSign のセットアップを行います。

bsn.Content への登録方法については以下サイトをご確認ください。

<https://jmgs-support.jp/faq/bs00195.html>

## 2-3 BrightSign のユニットセットアップ

SENSMI と BrightSign プレーヤーを接続するための設定を以下の手順で行います。

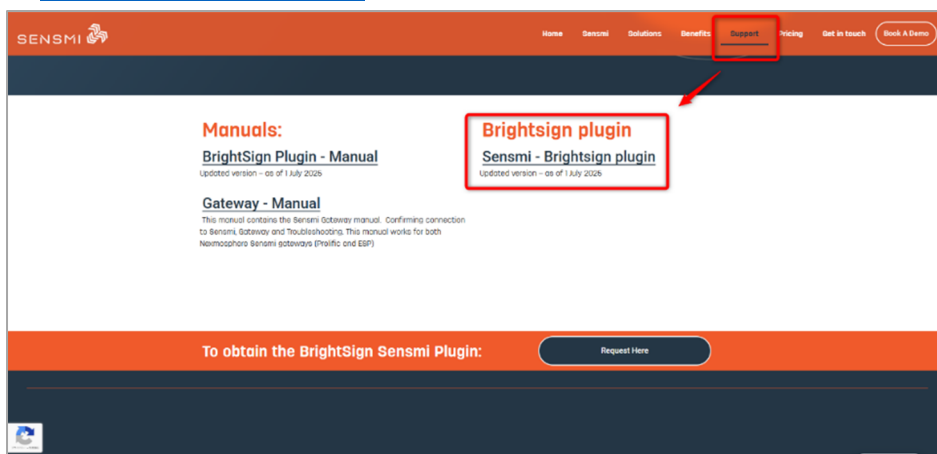
※スタンドアローンと bsn.Content でセットアップ方法が異なるため、ご注意ください。

### 【スタンドアローン】

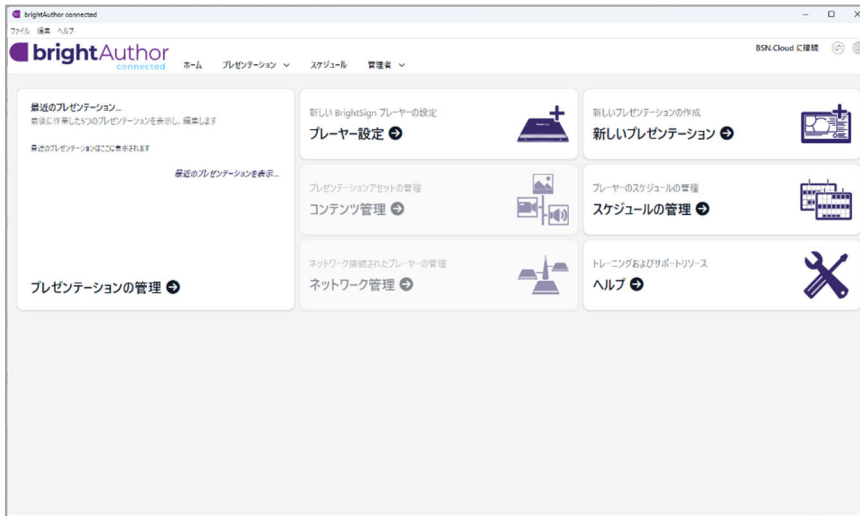
1.以下 SENSMI のサイトより、デモプロジェクトをダウンロードします。

※デモプロジェクトは zip ファイルとなるため、ダウンロード後は解凍ください。

<https://sensmi.eu/support/>



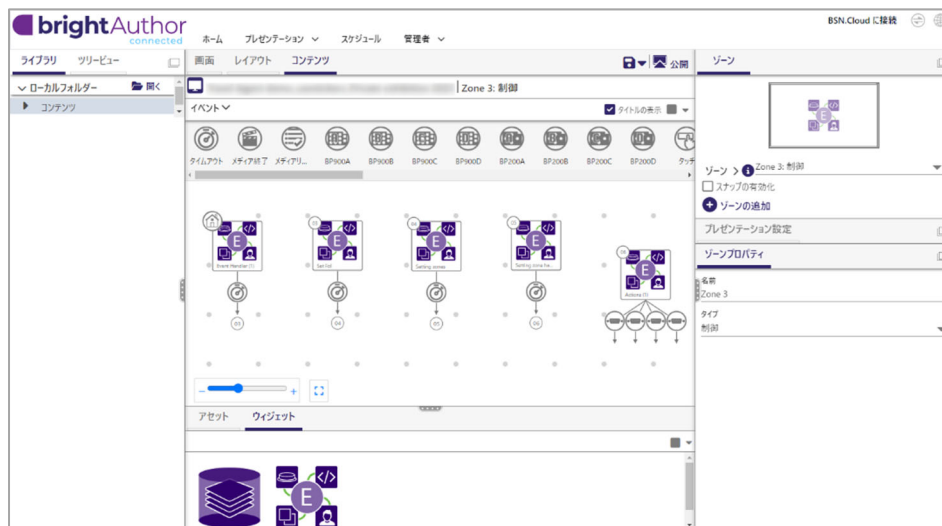
2. BA connected を開きます。



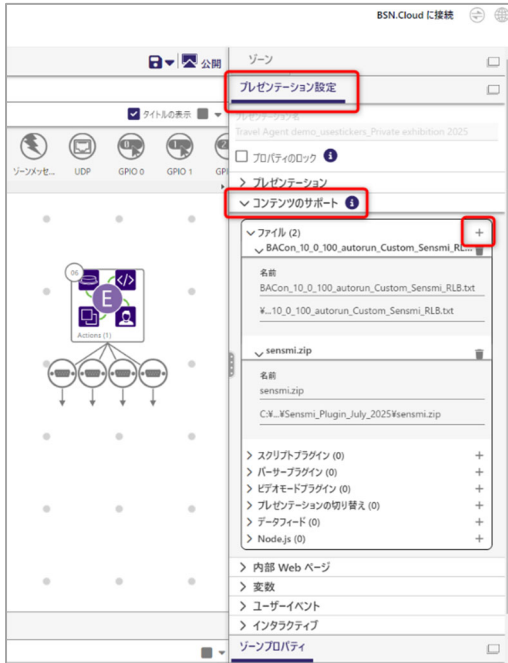
3. Nexmosphere 製品のセンサーを使用した任意のプレゼンテーションを開きます。

プロジェクトを作成していない場合は、「新規」から作成ください。

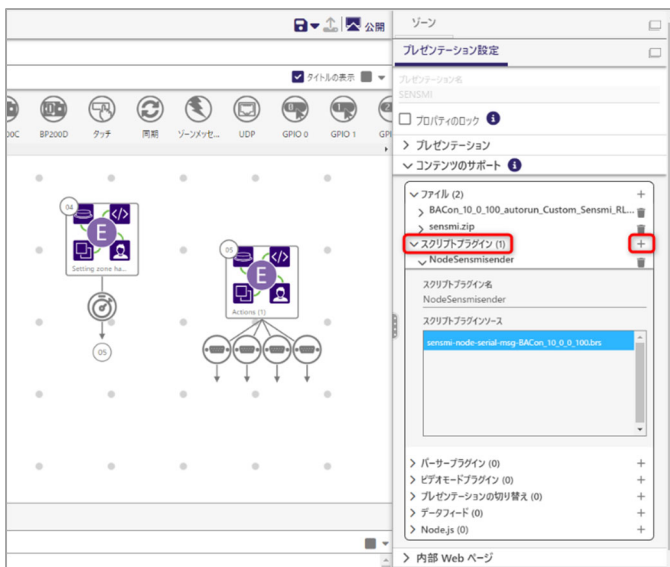
※ここでは例として LiDAR センサーのプロジェクトを使用します。



4. プレゼンテーション設定の「コンテンツのサポート」から「ファイル」を選択し、「+」をクリックします。項番 1 でダウンロードしたデモプロジェクト内にある、「BACon\_10\_0\_100\_autorun\_Custom\_Sensmi\_RLB.txt」と「sensmi.zip」を追加します。

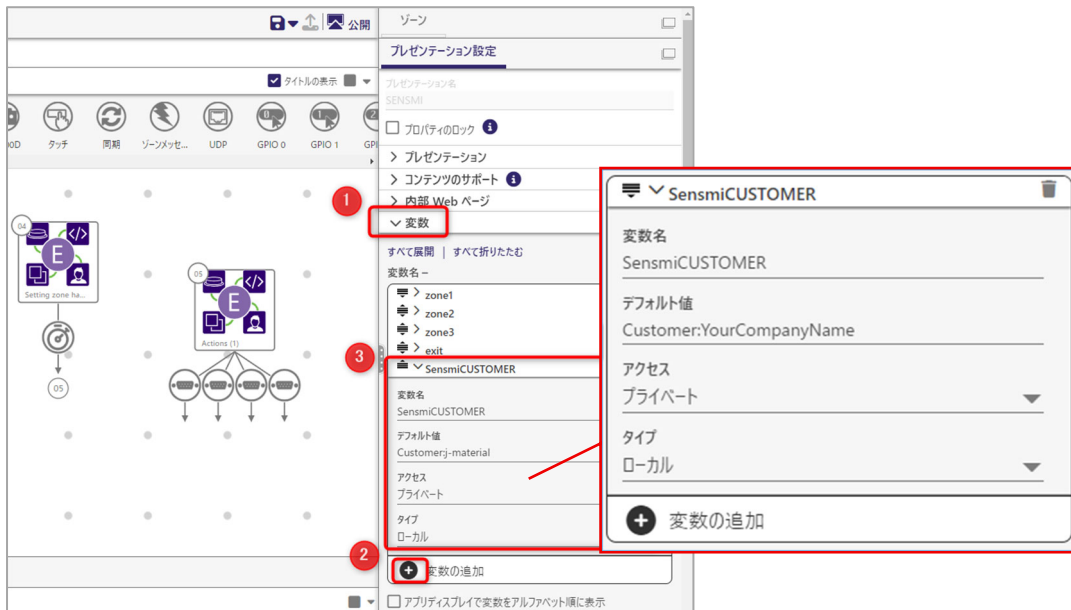


5. 「スクリプトプラグイン」から「+」をクリックします。項番 1 でダウンロードしたデモプロジェクト内にある、「sensmi-node-serial-msg-BACon\_10\_0\_0\_100.brs」を追加し、スクリプトプラグイン名を「NodeSensmisender」に変更します。



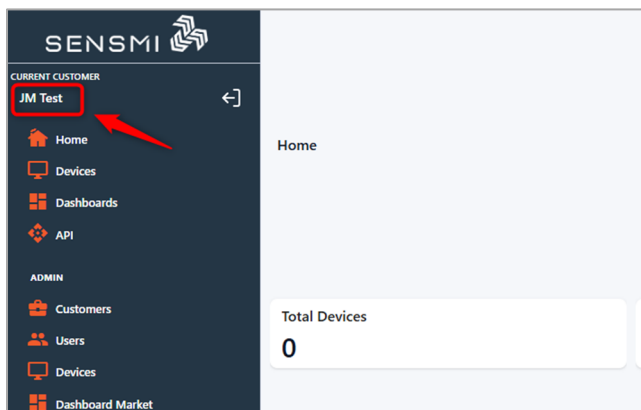
6. 「変数」から「+ 変数の追加」をクリックします。

各項目は③のように入力します。

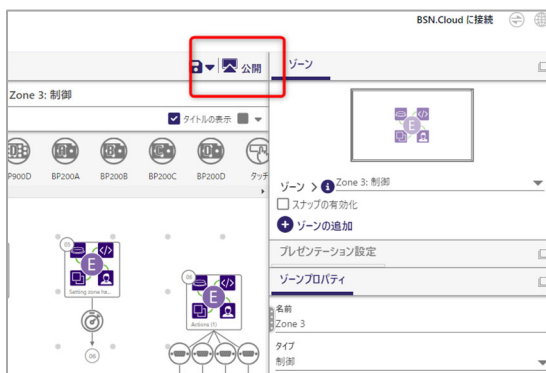


※デフォルト値の「Customer:」以降については、SENSMI ログイン後、左上に表示される名前を記入します。大文字小文字の区別があるため、合わせてご記入ください。

以下の場合、デフォルト値に「Customer:JM Test」と入力します。



7. 公開をクリックします。

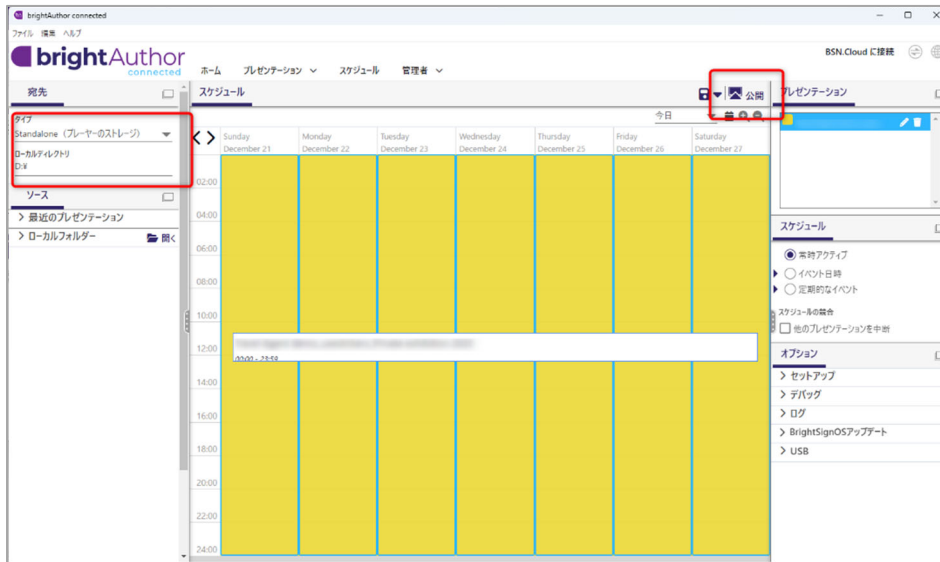


8.宛先のタイプで Standalone(プレーヤーのストレージ)を選択し、ローカルディレクトリから PC に挿入している microSD カードを保存先に設定します。

その後、「公開」をクリックし、書き出しを行います。

※スタンドアロンではなく、ローカルファイルネットワーク環境で運用する場合は、下記マニュアルの p.23 に記載の方法で設定を行い、p.63 に記載の方法で書き出しを行ってください。

[https://jmsg.jp/download/manual/BrightAuthor\\_connected\\_Manual.pdf](https://jmsg.jp/download/manual/BrightAuthor_connected_Manual.pdf)



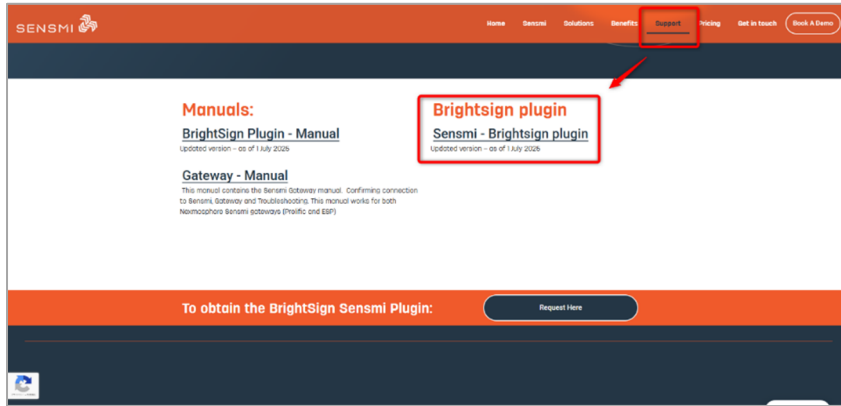
9.書き出しを行った microSD カードを BrightSign へ挿入し、プレゼンテーションを再生したらセットアップが完了となります。

**[bsn.Content]**

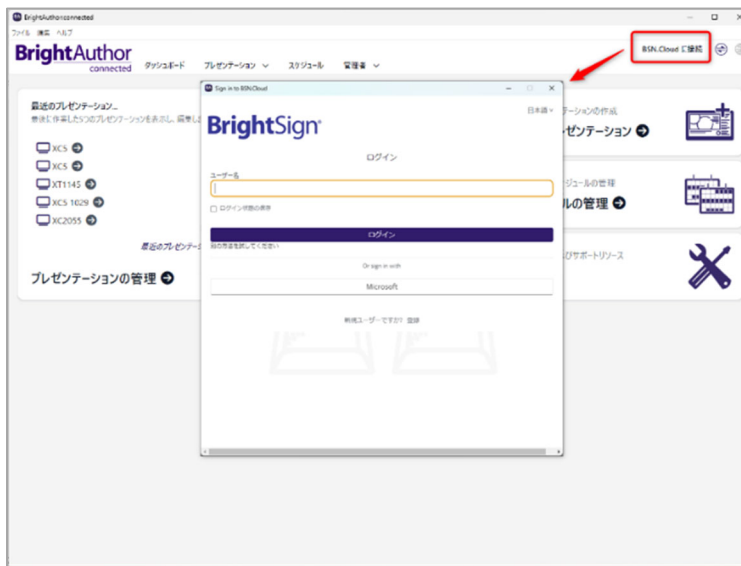
1.以下 SENSMI のサイトより、デモプロジェクトをダウンロードします。

※デモプロジェクトは zip ファイルとなるため、ダウンロード後は解凍ください。

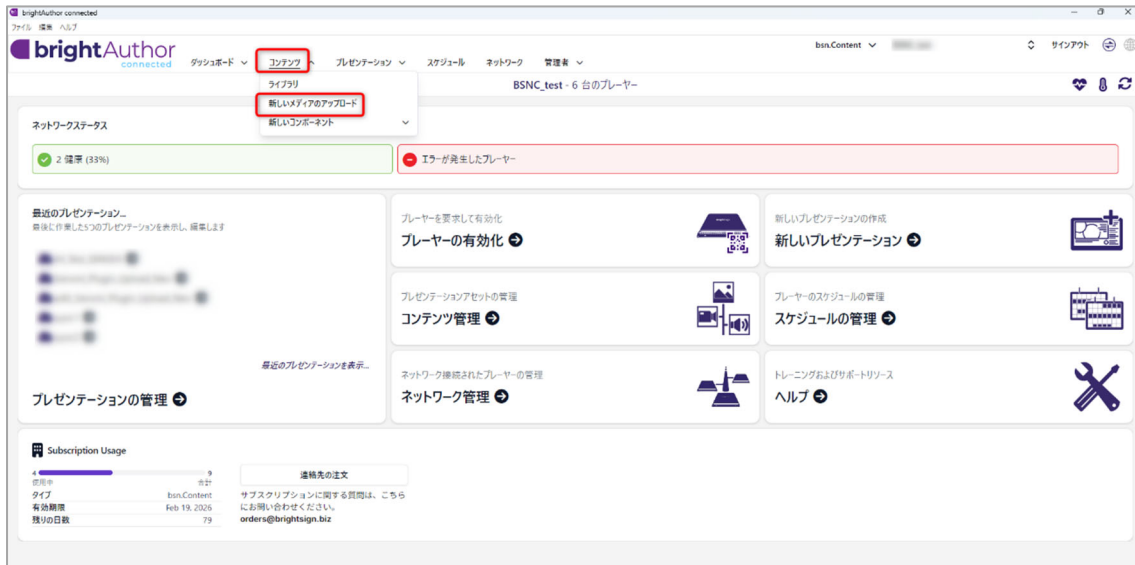
<https://sensmi.eu/support/>



2.BA connected を開き、BSN.cloud にログインします。



3. コンテンツタブから「新しいメディアのアップロード」を選択します。

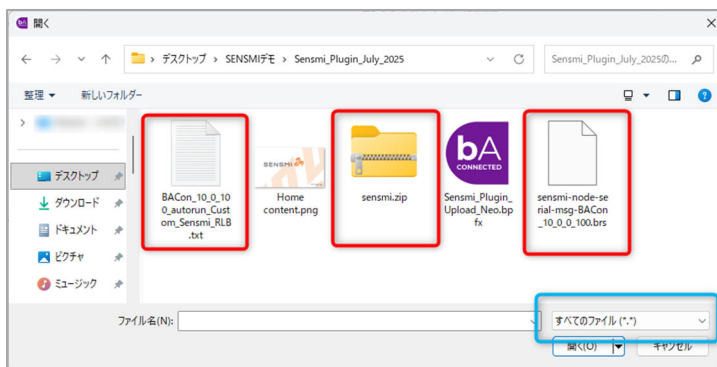


4. 「コンテンツをフォルダーに追加」からコンテンツを保存するフォルダーを選択し、「ファイルの選択」をクリックします。



5. 項番 1 でダウンロードしたデモプロジェクトの赤枠で囲まれた 3 点をコンテンツとして保存します。

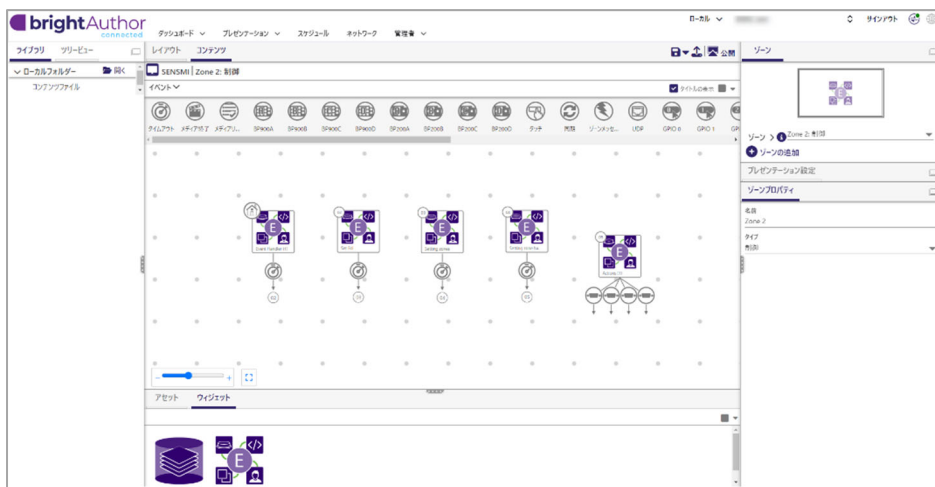
※ファイルが表示されない場合は、青枠で囲われた箇所を「すべてのファイル(\*.\*)」にご変更下さい。



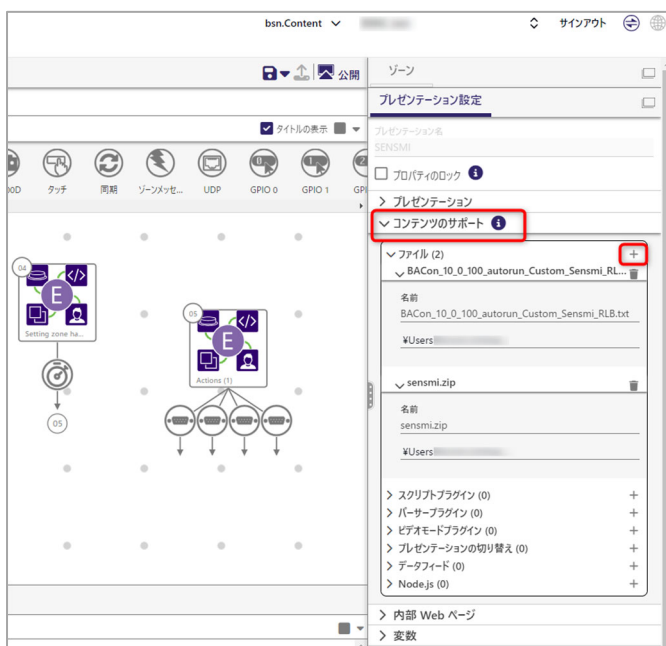
6. Nexmosphere 製品のセンサーを使用した任意のプレゼンテーションを開きます。

プロジェクトを作成していない場合は、「新規」から作成ください。

※ここでは例として LiDAR センサーのプロジェクトを使用します。

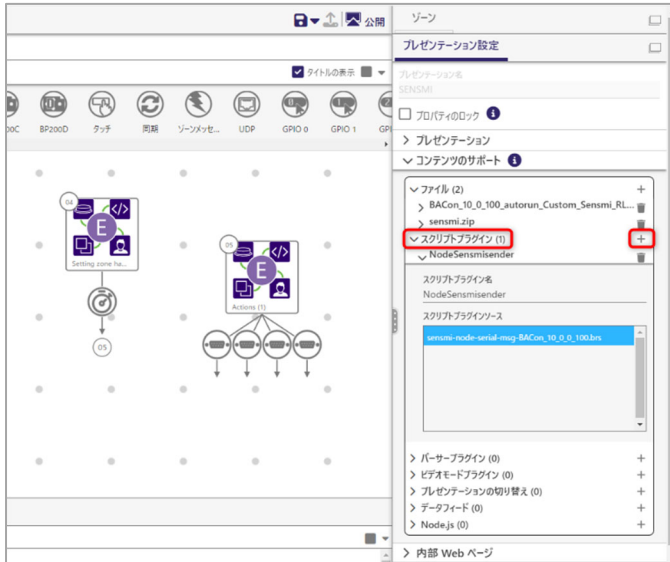


7. プレゼンテーション設定のコンテンツのサポートから「ファイル」を選択し、「+」をクリックします。項番 5 でコンテンツとして登録した、「BACon\_10\_0\_100\_autorun\_Custom\_Sensmi\_RLB.txt」と「sensmi.zip」を追加します。



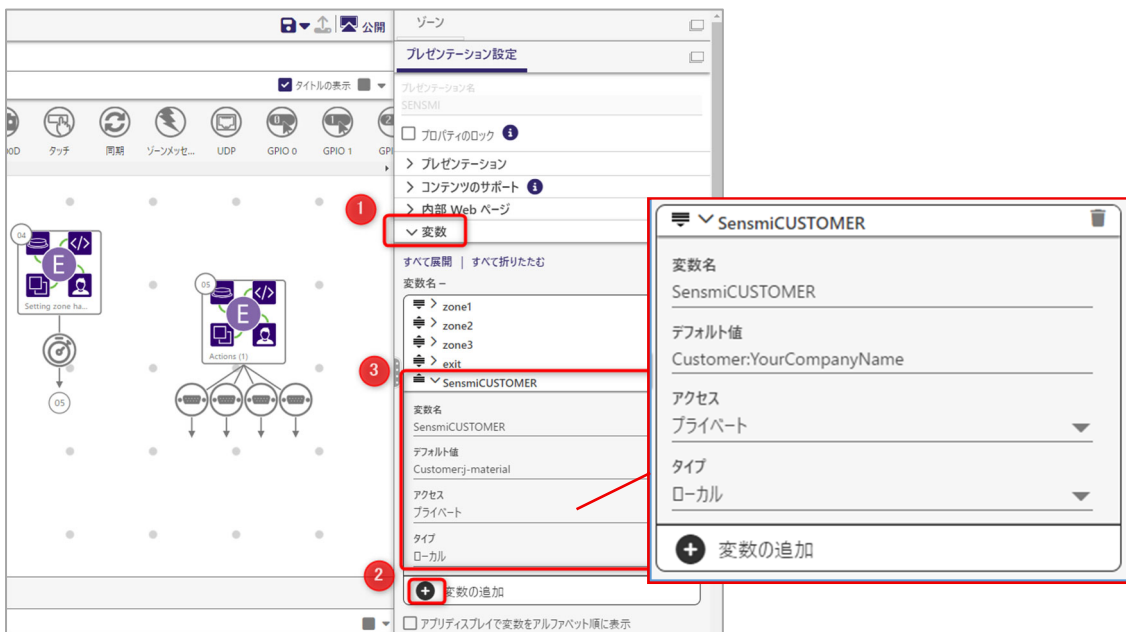
8. 「スクリプトプラグイン」から「+」をクリックします。

項番 5 でコンテンツとして登録した、「sensmi-node-serial-msg-BACon\_10\_0\_0\_100.brs」を追加し、スクリプトプラグイン名を「NodeSensmisender」に変更します。



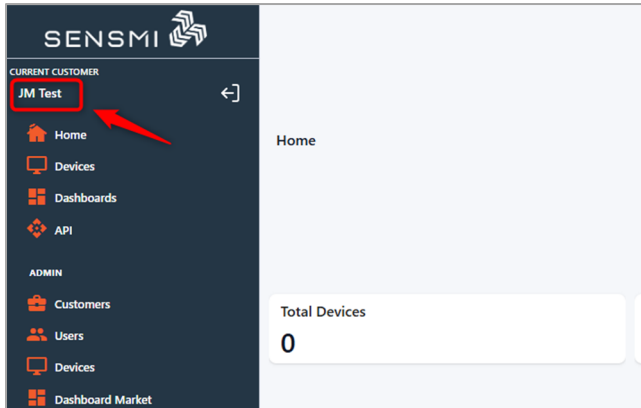
9. 「変数」から「+ 変数の追加」をクリックします。

各項目は③のように入力します。

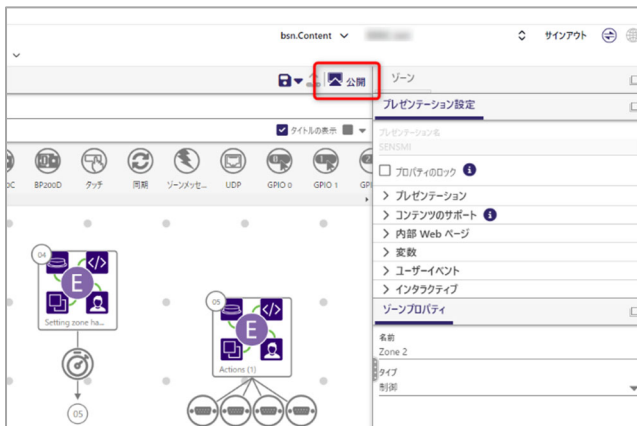


※デフォルト値の「Customer:」以降については、SENSMI ログイン後、左上に表示される名前を記入します。大文字小文字の区分があるため、合わせてご記入ください。

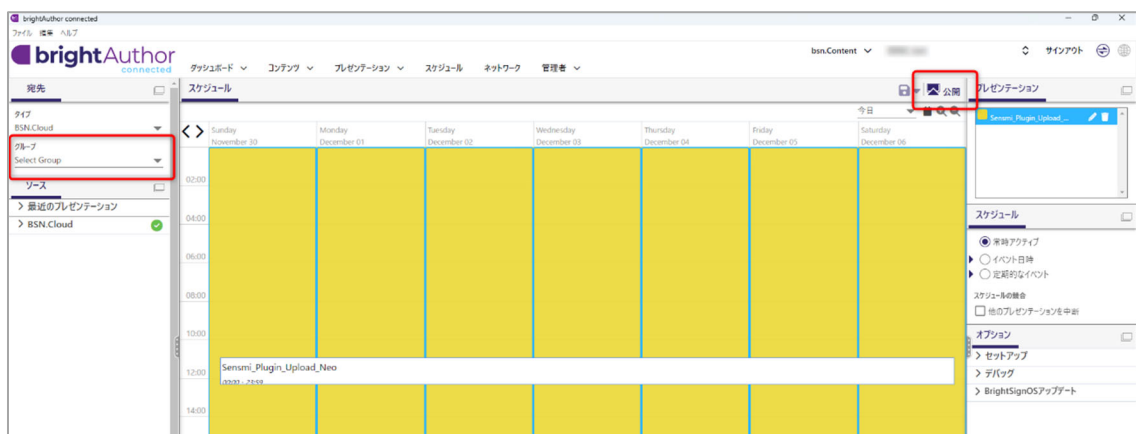
以下の場合、デフォルト値に「Customer:JM Test」と入力します。



10.公開をクリックします。



11.該当の BrightSign が所属する BSN.Cloud のグループを選択し、「公開」をクリックします。

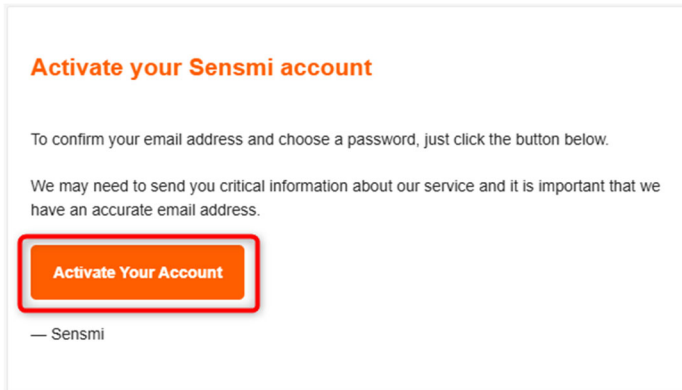


12.BrightSign がプレゼンテーションを再生したらセットアップが完了となります。

## 2-4 SENSMI のアカウント有効化

SENSMI にログインするためのアカウントを有効化する設定を、以下の手順で行います。

1. サービス利用開始希望日に、ご申請いただいたユーザーのメールアドレス宛に、以下内容のメールが送信されます。



2. 「Activate Your Account」をクリックすることで、パスワードを設定するサイトへと移行します。



3. 任意のパスワードを入力し、パスワードを作成することで、アカウントを有効化いただけます。  
※パスワード設定サイトへのリンクはメールが送られてから 24 時間で失効してしまうため、アカウントを有効化される際は、早めのご対応をお願いいたします。  
※リンクが失効した際は、[お問い合わせフォーム](#)より以下の必要事項を記載の上ご連絡下さい。

- ・会社名
- ・ユーザー名
- ・SENSMI に登録したユーザーのメールアドレス
- ・サービス利用開始希望日

## 3 SENSMI 基本操作

### 3-1 SENSMI ログイン

Web ブラウザーで「<https://portal.sensmi.eu/login>」のサイトを開き、ログインします。



### 3-2 Devices

Devices ではユニットセットアップが完了した機器の一覧を表示します。

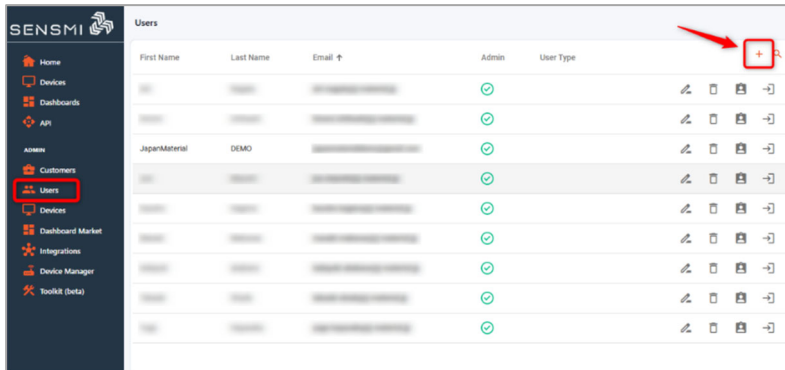
ステータスの状態や最終接続日時などを確認することができます。

Name ↑	Label	Firmware	State	Last Data Sent	Offline alerts	
HD1025 - [redacted]			OFFLINE	6 days ago		⌵
HS145 - [redacted]	Tokyo		OFFLINE	20 days ago		⌵
HS145 - [redacted]	Bluefin+Nexmosphere		ONLINE	a minute ago		⌵
HS145 - [redacted]	Makuhari		OFFLINE	20 days ago		⌵
LS425 - [redacted]	[redacted]		OFFLINE	23 days ago		⌵
XT2145 - [redacted]	[redacted]		OFFLINE	5 months ago		⌵

### 3-3 Users

Users では SENSMI に登録しているユーザーの一覧を表示します。

右上の「+」をクリックすることで、ユーザーを追加することが可能です。



以下の設定を入力し、ユーザーを追加します。

※必須項目は Email のみとなります。

Email : メールアドレスを入力

First Name : 名を入力

Last Name : 姓を入力

電話 : 左の三角から「JP Japan +81」を選択して電話番号を入力

Activation method : ユーザーを追加後に SENSMI にログインするためのサイト URL が表示されます。

Is Admin? : 有効にすることで、メニューに ADMIN のタブが表示

### 3-4 本体設定手順

SENSMI を利用するための設定は、以下の手順で行います。

#### 1. Device Manager (項番 3-5)

SENSMI に接続している BrightSign に対し、必要な設定を行います。

#### 2. Dashboard Market (項番 3-6)

分析を行うために使用するダッシュボードを追加します。

#### 3. Dashboards (項番 3-7)

追加したデバイスのダッシュボードを確認します。

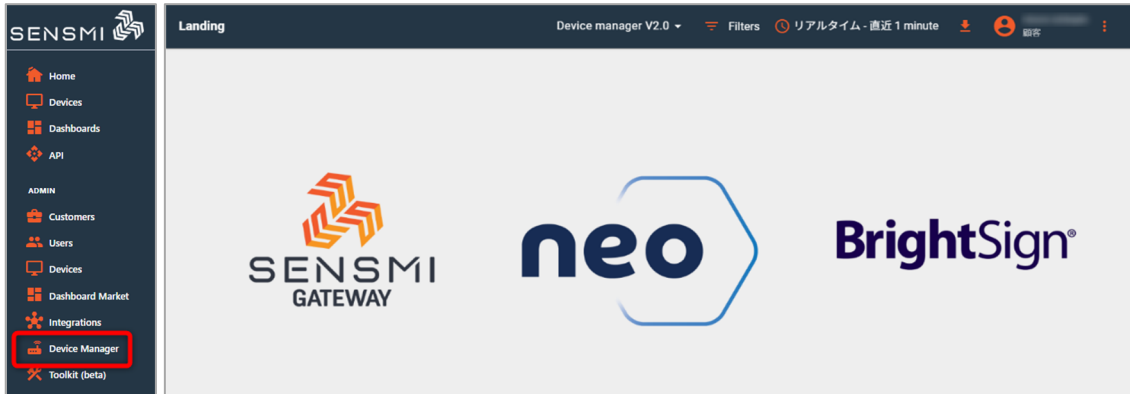
※「Device Manager」で機器の設定が行われていない場合、ダッシュボードを選択しても該当の機器に関する分析結果が表示されないため、事前に設定ください。

### 3-5 Device Manager

Device Manager では、分析を行う機器に対して情報の追加や各種設定を行うことが可能です。

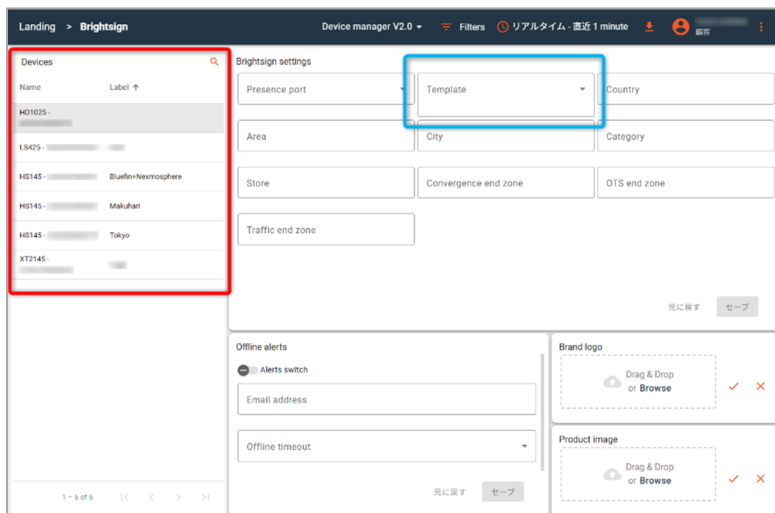
メニューから Device Manager を選択します。

3 種類の項目が表示されるため、BrightSign を選択します。



以下赤枠で囲われた箇所より設定を行う機器を選択します。

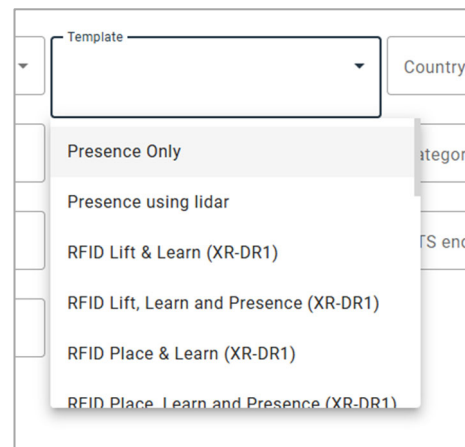
任意で Country や Category など必要な情報を入力します。



青枠で囲われた Template のプルダウンから BrightSign に接続しているセンサーを選択します。

※Nexmosphere 社製のセンサーによる分析を行う場合は、Template の設定を行う必要があります。

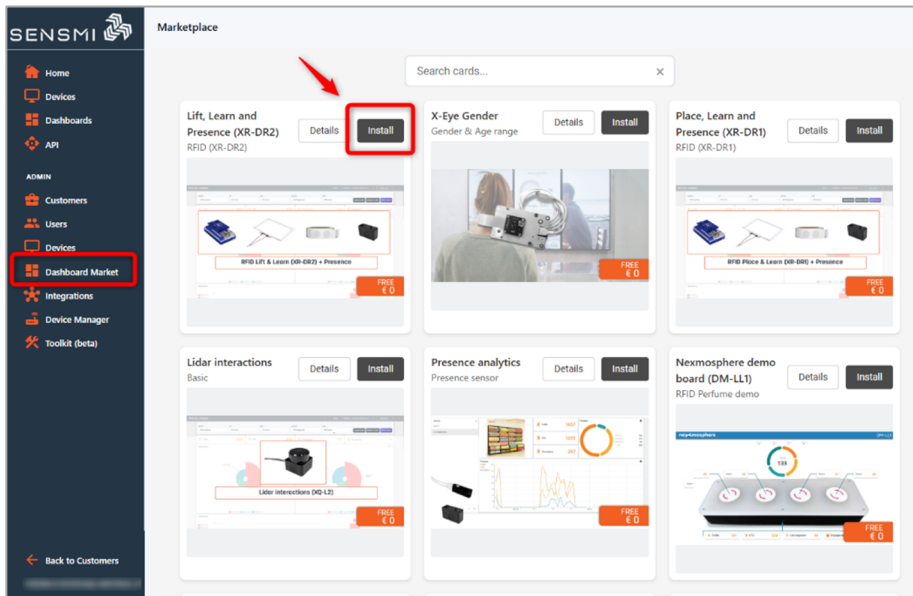
入力完了後は「セーブ」をクリックして設定を保存します。



### 3-6 Dashboard Market

Dashboard Market では、分析を行いたいセンサーを選択して「Install」を押すことで Dashboards に分析機能を追加することが可能です。

※Free €0 と記載があるものについては無料でご使用いただけます。



### 3-7 Dashboards

Dashboards では、Dashboard Market で追加したセンサー分析機能の一覧を表示します。

確認したいダッシュボードをクリックすることで、分析ページを開きます。

※分析表示は機器により表示内容が異なります。


Name ↑	Source	Created		
DM-LL1 Tokyo	DM-LL1	2025-10-09 16:29:22	🗑️	📄
DM-LL1(DSJ2025)	DM-LL1	2025-06-10 15:17:08	🗑️	📄
RFID_test	V3 RFID P&L + Presence	2025-11-11 18:29:47	🗑️	📄
Temperature x1 (Free) IH	Temperature x1 (Free)	2025-12-04 11:50:36	🗑️	📄
V3 RFID L&L + Presence	V3 RFID L&L + Presence	2025-11-11 21:14:35	🗑️	📄

項番 3-6 で追加したダッシュボードをクリックします。

※ここでは例として温度センサーのダッシュボードを選択します。


SENSMI		
Dashboards		
Name ↑	Source	Created
DM-LL1 Tokyo	DM-LL1	2025-10-09 16:29:22
DM-LL1(DSJ2025)	DM-LL1	2025-06-10 15:17:08
RFID_test	V3 RFID P&L + Presence	2025-11-11 18:29:47
Temperature x1 (Free) IH	Temperature x1 (Free)	2025-12-04 11:50:36
V3 RFID L&L + Presence	V3 RFID L&L + Presence	2025-11-11 21:14:35

選択したダッシュボード画面が開きます。

Temperature		
Temperature x1 (Free) IH		
Filters 履歴 - Current month so far		
<b>Devices</b> Name ↑ HS145 - LS425 - LS445 -	 No data to display on widget	Humidity No data to display on widget
Temperature No data to display on widget		

Devices 欄に表示される機器をクリックします。

※「3-5 Device Manager」で Template の設定が行われていない場合、機器名が表示されませんので、ご注意ください。

Temperature		
<b>Devices</b> Name ↑ HS145 - LS425 - LS445 -	 No data to display on widget	Humidity No data to display on widget
Temperature No data to display on widget		

選択した機器の分析結果が表示されます。

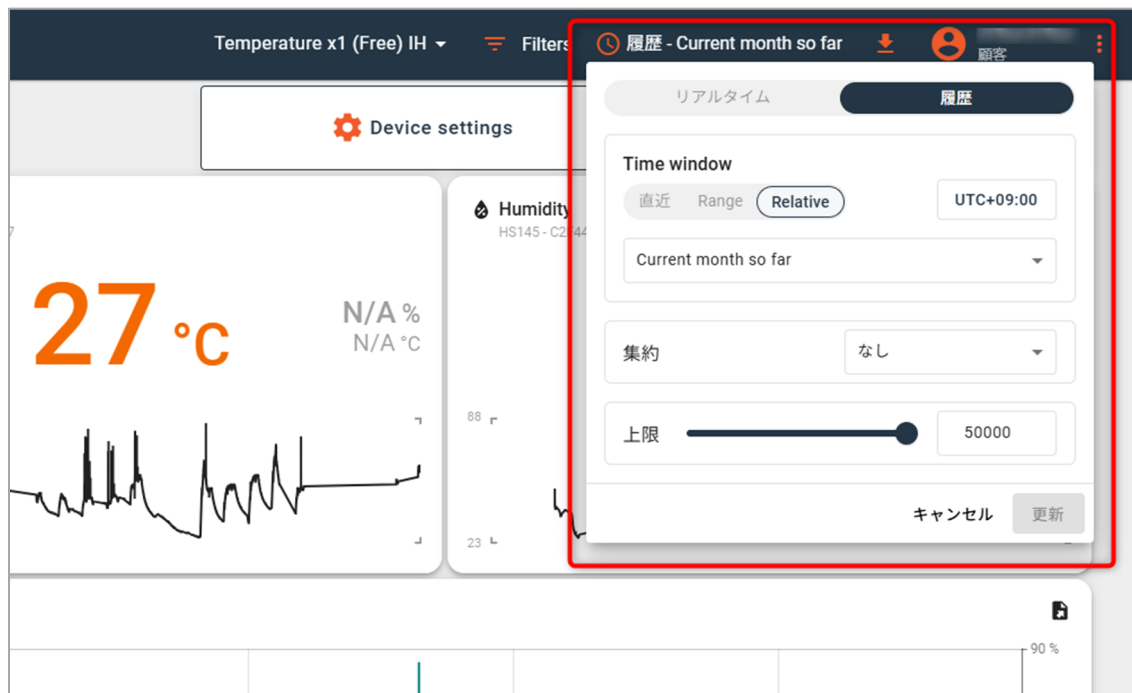
温度センサーでは、温度、湿度、指定した範囲の分析結果一覧を表示します。

各設定項目については以下をご覧ください。



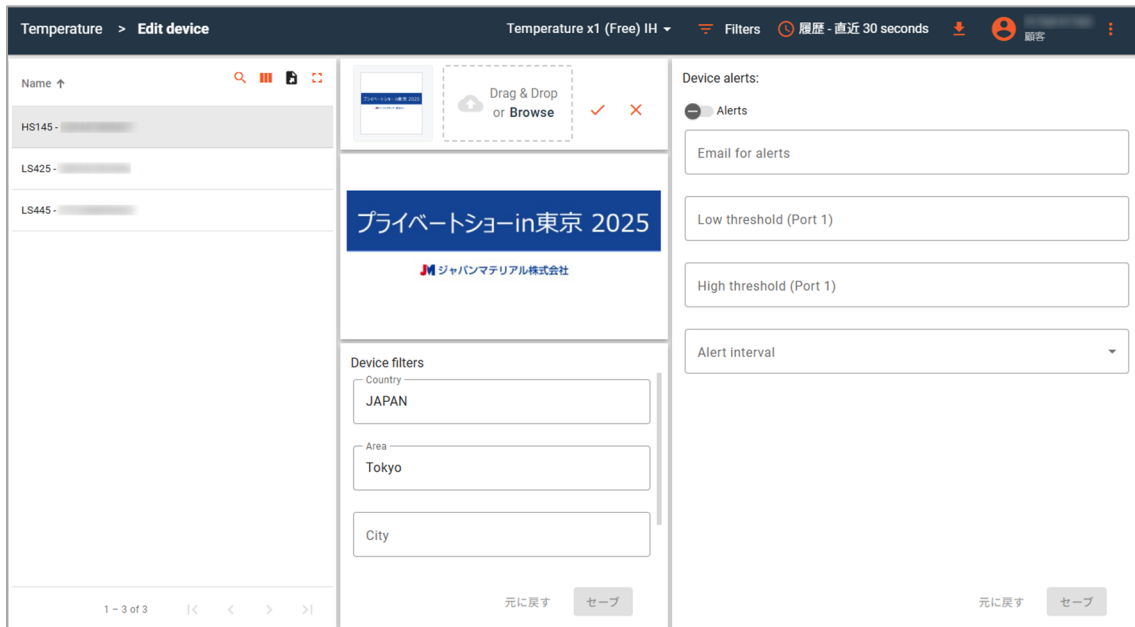
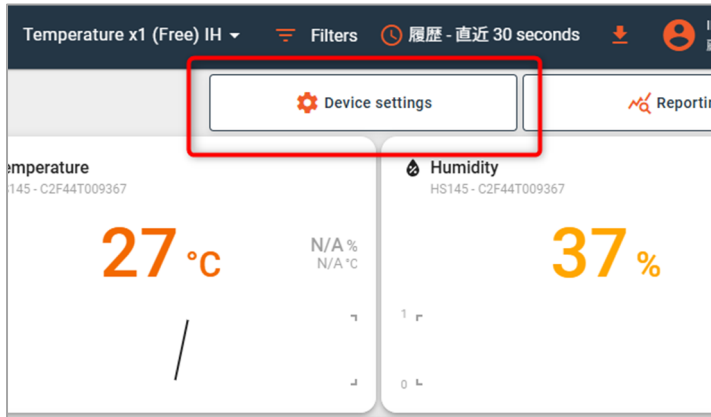
#### 【履歴】

右上の項目である「履歴」から分析結果を表示する期間の範囲選択が可能です。



## 【Device settings】

Device settings では、ロゴ画像の登録やデバイスがオフラインになった際に登録したメールに通知を送る機能などを設定することが可能です。



## 【Reporting】

Reporting では、複数のデバイスの分析結果を同時に表示・確認することが可能です。

※本機能は近日に廃止され、今後のアップデートによってメインのダッシュボード画面から確認することが可能となります。

## 4 用語一覧

### 【BrightSign】

デジタルサイネージ用のメディアプレーヤーであり、コンテンツを保存したメモリーカードを本体に接続するだけでデジタルサイネージを制御することができます。

### 【brightAuthor connected】

BrightSign を再生するためのコンテンツのレイアウトやプレイリストの作成、インタラクティブ機能やスケジュールの設定などを簡単に行うことができる専用のオーサリングソフトウェアです。

### 【BSN.cloud (bsn.Content)】

BrightSign を再生するために作成したスケジュール、プレイリストをクラウド経由で遠隔地から更新することができます。

### 【Nexmosphere】

デジタルサイネージや POS 用のセンサーやコントローラーを開発・製造しています。

サイネージプレーヤーである BrightSign に接続することで、様々なセンサー検知をトリガーにコンテンツを切り替えるなどの動作を行うことができます。